

VOL. 8

MONTHLY

# UP

Useful  
Printing  
Information

印刷に関する用語、こぼれ話  
業界のトレンドなどの情報を  
毎月ご紹介していきます。



次号では、  
DTPの現状についてを  
予定しています。

SEZAX

本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	☎03(3758)2511(代)	☎03(3758)2754
		営業専用	☎03(3758)2544
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル	☎03(3400)9211(代)	☎03(3409)7315
八丁堀コア	〒104-0032 中央区八丁堀2-19-8 八丁堀ビル6F	☎03(5566)1061(代)	☎03(5540)8304
マニュアル企画部	〒146-0092 大田区下丸子3-8-6 ブルーハイソ	☎03(5482)2751(代)	☎03(5482)2777
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	☎03(3758)2510(代)	☎03(3758)8850

株式会社セザックスクリエイティヴ			
	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	☎03(3409)4970(代)	☎03(3409)2732
株式会社セザックスインターナショナル			
	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	☎03(3409)0527(代)	☎03(3409)6610



この小冊子には環境にやさしい大豆インクを使用しています。

この小冊子は再生紙を使用しています。



その利点と課題。  
CTP、

政治・経済の世界では「構造改革」が声高に語られていますが、いま印刷のプロセスにも大きな変革期が訪れています。それを象徴するのがCTP (computer to plate) です。このCTPとは、デジタルデータから直接、刷版を行うシステム。ダイレクト刷版とも呼ばれています。

# 印刷の 構造改革か!? CTP、 その利点と課題。

デジタルデータからフィルムを出力し  
そのフィルムを刷版に焼き付ける。いま、印刷の  
前段階であるこのプロセスに革命が起きています。

CTPと呼ばれる新しい刷版の方法です。  
オンデマンド印刷などとともに  
印刷業界で注目されているこのCTPについて  
今回はご紹介しましょう。

ここでいう刷版とは、いわば版画の原版のようなもので、通常、デジタルデータをフィルムに出力し、それを光学的な原理で金属板に焼き付けるというプロセスで作られています。

この従来のプロセスから、「フィルム出力」を省略したのがCTPというわけです。CTPの大きな長は、作業工程が減るため短納期に対応できるということですが、それに加えてコストも抑えることができます。また、網点の再現性に優れていたり、見当合わせが容易になったり、印刷物の品質の面でもさまざまな利点があります。

では、CTPがすぐにこれからの印刷の主流になるかといえば、必ずしもそうとはいえません。それは、印刷物の制作過程において、フィルム出力前後に、クライアントと受注会社の間で修正を行うことが多いからなのです。にもかかわらず、無闇にCTPを使用すれば、修正のたびに刷版を行うことになり、かえってコストが高くなってしまいうでしょう。こうした修正の問題や色味を重視する日本の印刷事情、あるいは版の検査が難しいことなどもあって、いまのところCTPは、どうしてもスケジュール的に厳しいケースで使われるだけ、というのが現状です。

ところで、CTPを語るとき、DDCP (digital direct color proof) という存在を無視するわけにはいきません。こちらは、いわばダイレクト校正。つまり色校正をデジタルデータからダイレクトに出力できるシステムで、やはりコストの削減につながります。実際の印刷と同じインキや用紙を使用できないといった難点もあるDDCPですが、直接刷版を出力するというCTPのメリットを生かすためには、分けて考えることのできないものです。

従来の印刷プロセスから、フルデジタルのワークフローへ。課題はまだ山積みですが、それがクリアされたときCTPやDDCPは真の意味で印刷に革命を起こすことになるでしょう。

